

もろともに

NO4

「6月 校長講話」

6月21日(水)

【箕輪北小学校の誕生 その1】



箕輪北小学校が建っているこの地は、かつて、宿場「深沢」から発展し、「佐補の里」と呼ばれ、やがて「ふきはらの里」として栄えました。そして、明治という時代に、沢地区には、西光寺境内に「崇徳学校」(沢学校)、大手・八乙女地区には、大永寺に「止善学校」(大出学校)が建てられました。

これ以来35年間、地域の皆さんの努力で、地域の学校として歩んできた北小学区(沢・大出・八乙女地区)の二つの学校でしたが、なんと、明治41年に、その幕を閉じることになってしまいました。それは、沢や大出・八乙女の地域の学校がなくなり、

今の箕輪中部小学校にひとつに統合されることになったのです。学校がなくなることになったと知り、当時の皆さんの心配や不安はさぞかし大きかったことでしょう。

その後、40年以上、北小学区には小学校はなく、北小学区の小学生は、箕輪中部小まで、1年生から6年生まで、全員が通っていました。4km以上離れた場所にある学校へは、車や電車ではなく、歩いて通います。道も今のように、平らで整備されている道でなく、凸凹の砂利や土や草の道でした。今のように底の丈夫な靴なんてありません。下駄や、わら草履を履いて通いました。わらで編んだ草履は、小石が挟まり、すぐに切れてしまいました。裸足で砂利道を歩くと同じで、足がとても痛かったそうです。お父さんたちは、子どもたちのために1年に何十足とわら草履を作ったそうです。下駄も歯がすぐになくなり板だけになり、それが割れ、割れ目が皮膚を挟んでたいへんに痛い思いをしたと聞いています。また、服装も、今に比べれば、あたたかさも寒さも比較にならないほどの薄手の服装で、冬も夏も通い続けました。

この間、北小学区の地域の皆さんからは、幾度も「この地に学校を！」と、必死なお願いを、ほんとうに熱心に根気強く行いました。せめて1年生と2年生だけでもいいから、近くに学校を作って欲しいと強くお願いしましたが、願いは叶わず「ふきはらのこの地に学校を！」という願いは、やがて、地域全体の願いとなっていきました。

時は流れ、40年以上に渡り学校がなかったこの地に、なんと、昭和23年に、分校として、「沢区熊野」「ふきはらの地」に念願の学校ができることが決定されました。長い間の願いが実ったのです。当時は中部小の分校でしたが、その3年後に、分校ではなく「本校」となることも決まりました。ずっと夢だった願いが叶い北小学区の皆さんの喜びはさぞかし大きかったと思います。

校舎を建てる場所は、いろいろと考えられた末、今の北小が立っているこの場所に決まりました。ここは、70年近い昔は、田畑が広がっていて、1m幅ほどのちょっとした道があった場所だったんだそうですが、当時、戦争が終わり間もない食糧不足の時代でしたが、貴重な農地をつぶして、学校用地にと提供してくださる方々がいて、念願の校舎建設が始まりました。これを聞いて地域の皆さんはたいへんに喜び、全員が総出で、校地の地ならしをしました。今のような機械はなく、何日も何日もかけて、つるはしやじょれんで高い土地を削っては低いところに土を入れ平らにしたそうです。そこに校舎を作っていました。

この地域に学校を作ることは皆さんの悲願だったので、保護者の皆さん、そして地域の皆さんは、我が子や地域の子どものために学校を建てるのだと、学校建設に向け、一生懸命協力しました。何もないところから、地面をならし、悲願の校舎が地域の皆の力で建てられたのです。校舎完成の喜びはどんなだったことでしょう。言葉では言い尽くせない喜びだったことでしょう。昭和25年、ついに「中箕輪小学校北分校」が建てられました。北小の誕生です。北小が、開校〇周年という言い方ではなく、独立開校〇周年という「独立」が付くこの言葉に「私たちの地に、私たちの学校を！」という地域全体の強い願いがあったことを今更のように思います。

「北小コミュニティースクール」の実施に向けて

PTA 総会のおり教育事務所より説明がありましたが、耳慣れない言葉ですので、若干説明をさせていただきます。

この間、校長室を訪ねてくださった地域の方がこうおっしゃってまいりました。「子どもたちの声がしますね、学校っていいですね。こうして学校に来るだけでも子どもたちから元気もらいます。」また、昨年度、リンゴの学習を終えた4年生児童は「高田さんと1年間、楽しかったけれどももう終わりなので少し悲しいです。でも今度はお礼の会ができたので良かったです。またがんばります。ありがとうございました。」と感謝の言葉を綴っています。このような機会が多いと言うことは、日頃から、学校が地域の皆様にお世話になっている機会があることの表れです。

このように 学校を中心として、子どもと地域がつながり 子どもも大人も 互いに「勇気」や「元気」をいただく互惠のつながり。これを願い、学校を地域とともに、運営していこうというのが「北小コミュニティースクール」です。

北小では、この「北小コミュニティースクール」について、幾度も検討を重ね、総務コーディネーターの武井正幸様をはじめ、八つの部の委員の皆様、内訳としましては「総務、キャリア、学習、特別、環境、安全、読み聞かせ、広報」の33名の各部役員の皆様を中心に、本年度より本格実施をすることになりました。

学校というところは、北小が特にそうであるように、地域の方々の願いとともに立って来ましたし、これからも地域の方の元気の発信もととしても、それこそ、かけがえのない施設として立っていくことでしょう。皆様には、予定やお仕事もある中、まことに恐縮ですが、どうか北小の子ども達のために、将来の北小のために、保護者・祖父母の皆様はもとより、地域の皆様のお力をお貸しください。

詳細については、今後出されるプリント等をご覧いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(以下、目的と若干のQ&Aを載せます)



「北小コミュニティースクール」とは



【目的】地域・保護者の皆さんが、学校を訪れ、子どもたちの活動や学校の課題・環境整備等できる範囲で支援していただく。子どもたちとなかよくなり「楽しいコミュニティースクール」作りに向け、お力をお借りする。地域ぐるみで子どもたちを育てる一つの契機としていただく。

【対象】地域の皆さん（祖父母・保護者に限らず、どなたでも）

【活動メニュー】子どもの安全確保や活動の支援、学校の環境整備となること等、各部の計画で進めています。

(→まずやってみて、メニューを広げていければと思います)

【Q & A】

- 【協力したいのですが、忙しくてあまり参加できないかもしれません…。】
たとえ30分でも、学校に来ていただくだけで、子どもも先生方もうれしく思います。また、都合が合わず、たとえ参加ができなくても、お気持ちだけでうれしく思います。来校の際は、職員室に声がけくだされば、学校職員がご案内いたします。(皆さんが気軽に集まれる部屋「ボランティアルーム」も用意してございます)
- 【何か指導しなくてははいけませんか？自信がないのですが…。】
指導は学校で先生方が行います。私たちと一っしょに子どもを見守ってくださるだけで十分です。安心してきてください。時にはその場で、「プリントに丸つけをお願いします」などをお願いしますが、皆様を悩ませるようなことは申しません。また、環境整備などで子どもがいないときの活動もあります。どうか、お力をお貸しください。
- 【交通費は出ますか？】
申し訳ありません。お支払いできません。
- 【保険などには入りますか？】
現在は入っていませんが、今後、検討していく予定です。



【通学パトロール役員の皆様】

